

世界農業遺産国際スタディ・プログラム 研修レポート

総論

自分は将来の進学、就職先を考えて行く上で、多くの知識が必要だと感じていました。そして、自分はこの研修を、より多くの農業についての知識や、日本が抱えている課題を学ぶことが出来る機会だと考えて参加しました。

実際に研修を受けてみて、地域として共通の問題として若い世代の人口減少による担い手不足が深刻だと改めて実感しました。さらに個々として、ジビエは日本でかなり規制されていることや、海水温の上昇などによる捕れる魚の種類の変化や、山の環境と海の環境の相互性や、山と人の関係の里山と、海と人の関係の里海の質向上の重要性を新たに知りました。一度に全てを解決することは困難のように感じるため、まずは人手不足に関しての緩和法として、栽培しやすい、手入れのしやすい農作物や樹木、農作業具の開発をすべきと考え、自分は植物の遺伝子操作に興味があるので、この分野で生かしたいと思います。ですが、遺伝子操作された植物の活用には抵抗があることが日本の風潮であり、自分自身も知識が足りないため少し抵抗感があります。そのため、間接的ではありますが、農業をする側の目線で農作業具開発にも携われたらなと思います。今までは地域での若い世代の人口減少についてどこか他人事のように考えていましたが、これを機にこの問題に関心を持ちました。人口減少はまず、町に住む人々がその町に魅力を感じる場所に立ってやっと改善に向けて進んでいけるかなと思うので、例えば地産地消をただ行うのではなく、さらにそこを深めて行くような教育課程をもつ必要があると考えました。また、この『地域の抱える問題』は日本各地に点在し、さらにそれぞれが抱える固有の問題も存在するため、より多く知っていく必要があると感じました。将来は遺伝子操作で、前述した問題の中でも多少生活が楽になる程度の改善や、自分の興味のあるアレルギーに関わることを研究していきたいです。

次回以降の参加者の方々も自分の視野を広げる機会にしながら、その地域の抱える問題が自分の興味のある分野にどのように関わっているか考えながら参加するとよいと思います。